



もしもの時に伝えるシート

～作成に至った経緯と現在までの取り組み～

都島区在宅医療・介護連携相談支援室

コーディネーター 竹下美代子

「もしもの時に伝えるシート」を作ることになった背景

- ・身寄りのない方が亡くなられ、ご本人の意思を引き継げなかった事例が度々あり、何とかしないといけないという課題があった。
- ・救急で運ばれてきたものの、緊急連絡先がわからない患者の医療や支援に困ることがあった。
- ・「あんしんカプセル」はうまく活用されているかどうか。

【取り組みのきっかけ】

いろんな切れ目を作らないツールとして、市民、医療・介護関係者に一番身近に感じてもらえる活動はどの様な方法があるか。

都島区在宅医療・介護連携推進協議会の 「切れ目のない入退院支援ワーキング」において

- 救急搬送された時に情報はうまく伝わっているのだろうか。
- 在宅側から伝えた情報と救急搬送された時に救急外来が欲しい情報は、同じなのだろうか。
- 救急搬送時「あんしんカプセル」は、うまく活用されているのだろうか。

ということから・・・。

「切れ目のない入退院支援ワーキング」メンバーと 大阪市立総合医療センター救急外来看護師でカンファレンス

- 救急外来では、**お薬手帳は60%の方が持参されており確認している。**
- 救急外来では、紛失、盗難等の苦情トラブルを防ぐため、触った物すべてを記入しないといけない為、「あんしんカプセル」を持参されているかどうか、**カバンの中を開けて見る事は殆どない。**
- 帰って頂ける状態でもお迎えに来て頂く方の**連絡先が分からず、救急室で待機して頂き救急室を開けることが出来ない事がある。**
- 病院へ救急搬送され所持金もなく**意識が戻らぬまま亡くなり、身寄りがわかるものがなく、病院が死後の手続きをせざるを得ない事がある。**

都島区で実際にあった事例

<事例Aさん>

70代女性。独居、持ち家、身寄り不明。近所の方から新聞が溜まっていると連絡あり、消防・警察が家で倒れている本人を発見し救急搬送。



しかし、

搬送時、身寄りがわかるものは不明。

数日後、意識が戻らぬまま搬送先の病院で亡くなりました。

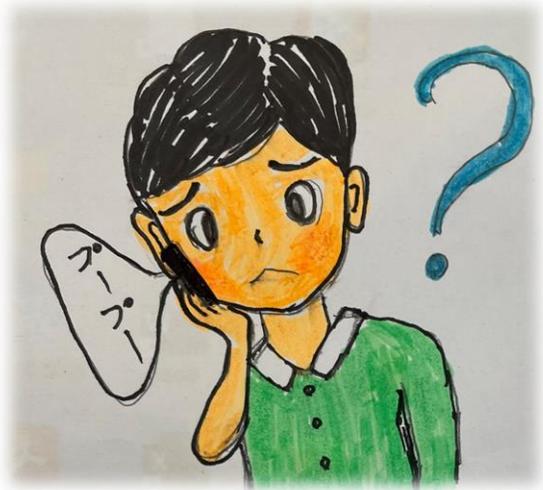
→身寄りが不明のまま死後の手続きを進めざるを得なかったため、病院が死亡届を提出。

葬儀は、親族不明のため病院にて区役所保健福祉（生活支援）に相談後、葬祭扶助での火葬となりました。



ところが、3か月後

→生前本人に頼まれていた親族が安否確認の電話をするも通じませんでした。



警察や包括に連絡して、区的生活支援より、親族に死去を伝えられました。

頼まれていたのに、
本人の思いを、
叶えてあげる事が
できませんでした。



誰でも、いつでも命に関わる大きな病気やけがをする可能性があります。
年齢とともに認知症の有病率も、高まることも知られています！

- 命の危険が迫った状態になると約**70%**の人が、**医療**や**ケア**など自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることが**できなくなる**と言われてい
ます。
- 自分では気が付かない内に、認知症状が進んで**自分の思い**を伝えられなくなることもあります。

- 都島区の現状**
- ・高齢化率(R5年10月1日現在) 24.8%
 - ・高齢者の独居率の上昇(令和2年度国勢調査では10年前の1.24倍)
 - ・認知症高齢者率の上昇

都島区高齢者地域包括ケアシステム推進会議(みやこねっと)

組織: 医師会、歯科医師会、薬剤師会、警察署、消防署、社会福祉協議会、地域包括支援センター運営協議会、民生委員・児童委員協議会、居宅介護支援事業者連絡会、認知症高齢者等支援ネットワーク連絡会、在宅医療・介護連携相談支援室

運営: 区役所保健福祉課(福祉)

<検討課題>の一つ

「高齢者が元気なうちから自分の将来像を描く機会が少ない」

・<都島区の目指す目標>

高齢者が元気なうちから、もしもの時を考える

・<令和5年度の具体的目標>

緊急連絡先の準備の周知

思いを伝えるにはどうすれば？

- ご本人の意思を引き継がない理由は、どこに問題があるのか。
- 救急搬送時に、地域と救急外来の連携に切れ目はどこにあるのか。
- 確認した救急外来では「あんしんカプセル」が、うまく活用されていない



ということから、

自分の思いを伝える身近なシートを作ろう!

- 救急医療現場で**医療職が確認**することが多い、**お薬手帳に挟めるもの**。
- 四つ折りにするとお薬手帳サイズになり、変更があれば修正もできるもの。
- 内容については、救急搬送された時に**最低限ほしい情報**。
- 区民の方が書きやすいもの
- 都島区全体で取り組めるシートを作成し、そこから「もしもの時に伝えたいこと」エンディングノートへつながるものを検討。

そこで、

都島が一体となつての取り組みが必要！

- ・「切れ目のない入退院支援ワーキング」で『緊急時連絡先』等を書き込むシートを何度も会議を重ねて検討し、専門職の意見や区民等にお試して実際に記入して頂いて、意見を参考にシートも何度も修正し検討。
- ・お薬手帳とシートを一緒に入れる「お薬手帳カバー」については、薬剤師会へ協力依頼。
- ・都島全体で取り組めるものということから、「みやこねっとコアメンバー』と合同会議を行い検討。

「もしもの時に伝えるシート」の作成について

- シートを分かって頂くための案内文の作成
- 印刷に関しては、シート25,000部. 案内文に関しては20,000部の印刷費用を医師会と交渉
- お薬手帳カバーの作成については、薬剤師会会長へ提案
(会議にも数回参加して頂き、お薬手帳・カバー作成について現在検討中)

1 「もしもの時に伝えるシート」の目的

- 高齢者が元気なうちからもしもの時を考えるとともに、もしもの時（緊急時）に患者の支援等を円滑にできるように地域関係機関で共有し、連携した支援を行う。

2 対象者

- 都島区民で概ね高齢者（60歳以上）又はその同居の親族等。
- 都島区内の設置場所に来所された方でシートを希望された方。
（他区他市民への配布も可）

3 周知・啓発方法

- 設置によるもの（病院・診療所・歯科医院・区役所等）
- 説明、記入補助を行うもの（薬剤師・訪問看護・ケアマネジャー等）

「もしもの時に伝えるシート」と、「ご案内」を 都島区医師会の協力で令和5年10月発行

企画制作：都島区在宅医療・介護連携推進協議会

一般社団法人都島区医師会、一般社団法人都島区歯科医師会、都島区薬剤師会、都島区地域包括支援センター、都島区北部地域包括支援センター、都島区居宅支援事業者連絡会、みやこじま訪看ネット、都島区ヘルパー連絡会、都島区保健福祉センター、都島区在宅医療・介護連携相談支援室、大阪市立総合医療センター

発行：一般社団法人都島区医師会
都島区在宅医療・介護連携相談支援室

<p>このシートを記入した人が本人以外の場合 関係・お名前のご記入をお願いします。</p> <p>本人との関係： _____ お名前： _____</p> <p><small>企画制作：都島区在宅医療・介護連携推進協議会 一般社団法人都島区医師会、一般社団法人都島区歯科医師会、都島区薬剤師会、都島区地域包括支援センター、都島区北部地域包括支援センター、都島区居宅支援事業者連絡会、みやこじま訪看ネット、都島区ヘルパー連絡会、都島区保健福祉センター、都島区在宅医療・介護連携相談支援室、大阪市立総合医療センター 発行：一般社団法人都島区医師会、都島区在宅医療・介護連携推進協議会</small></p>	<p>もしもの時に伝えるシート</p> <p>裏面もご記入の上、四つ折りにして お薬手帳と一緒に持ち帰ってください！</p> <p>2023年度版</p>
<p>「もしもの時に伝えたいこと」 エンディングノートをお持ちですか？ 元気なうちに、自分の思いや希望を伝えておきましょう。</p> <p>★ノートを記入された方は、 置いている場所をお書きください。 場所： _____</p> <p>★「もしもの時に伝えたいこと」ノートは 都島区保健福祉センター分館にあります。 (無料)</p>	<p>このシートを記入した日</p> <p>_____年 月 日 修正日 _____年 月 日</p> <p>★記入部分に変更がないか、時々確認しましょう。 変更部分があれば、書き直しましょう。</p>
<p>本人(わたし)の情報</p> <p>フリガナ： 名 前： _____ 電 話： _____ 生年月日：大正 昭和 平成 _____年 月 日 住所：大阪市 _____</p> <p>薬や食べ物のアレルギー、アルコール消費等に 過敏であれば記載しておきましょう。 アレルギー： _____</p>	<p>緊急時連絡先：医師の説明を 聞いてくれる人を記入しましょう。</p> <p>フリガナ： _____ 関係 _____ 名 前： _____ 電 話： _____ フリガナ： _____ 関係 _____ 名 前： _____ 電 話： _____</p>
<p>かかりつけ医(主治医) (医院・病院の名前)</p> <p>医療機関名： _____ 電話番号： _____</p> <p>ケアマネジャー(介護保険利用者)</p> <p>居宅支援事業所名： _____ 担当者の名前： _____ 電話番号： _____</p>	<p>わかる範囲で延命治療について、 今の自分の思いに○を付けましょう！</p> <p>★呼吸が出来なくなったときの人工呼吸</p> <p>・希望する ・希望しない ・今は、わからない</p> <p>★心臓が停止したときの心臓マッサージ</p> <p>・希望する ・希望しない ・今は、わからない</p>



「もしもの時に伝えるシート」の配布状況

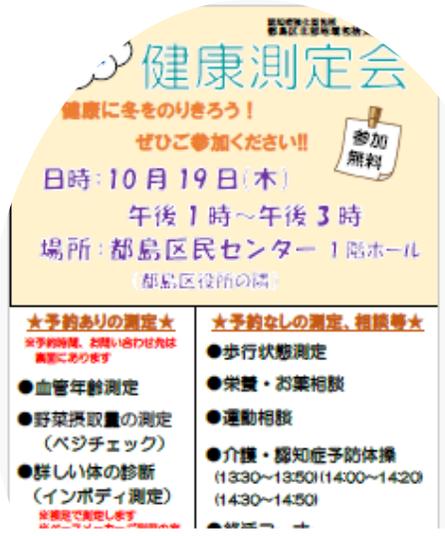
病院、診療所、薬局、歯科医院、居宅介護支援事業所、
訪問看護ST、包括、区役所、保健福祉センター、
ランチ、民生委員等へ現在14,650部を配布

(R.6.2.29現在)

啓発状況

(10月10日よりシート配布開始)

- ・えむカフェ (R5.10.1)
- ・健康測定会 (R5.10.19)
- ・都島区在宅医療・介護連携推進事業
区民講演会 (R6.2.14)
- ・ホームページへシートの掲載
(区役所・医師会)



健康測定会
健康に冬のりきろう！
ぜひご参加ください!!
参加無料

日時: 10月19日(木)
午後1時～午後3時
場所: 都島区民センター1階ホール
(都島区役所の隣)

<p>★予約ありの測定★ ★予約時間、お問い合わせ先は 裏面にあります</p> <ul style="list-style-type: none"> ●血管年齢測定 ●野菜摂取量の測定 (パジチェック) ●詳しい体の診断 (インボディ測定) ※測定で測定します 	<p>★予約なしの測定、相談等★</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歩行状態測定 ●栄養・お薬相談 ●運動相談 ●介護・認知症予防体操 (13:30～13:50)(14:00～14:20) (14:30～14:50)
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



もしもの時を考えた
もしもの時のために「もしもの時に伝えるシート」
を記入してお薬手帳と一緒に保管しましょう♪

“もしもの時”に緊急連絡先や
自分の思いを医療関係者や、
あなたを支える人に伝える




都島区在宅医療・介護連携推進事業区民講演会
もしもの時のために
大切な人に伝えておきたい事は
ありませんか？
～体験しながら学びましょう～

日時: 令和6年
2/14(水)
13:30～15:00

会場: 都島区民センターホール
大阪府都島区中野町1-16-25
定員: 40名(申込) 無料

第1部
講演 自分らしく暮らし続けるために
～元気なうちからもしもの時を考える～
講師: 都島区在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター
竹下 真代子さん

第2部
もしばなゲーム開催
2/9(金) 先着順

主催: 都島区在宅医療・介護連携推進協議会
申込み・お問合せ: 都島区保健福祉センター(分館)
TEL: 06-6882-5882
FAX: 06-6925-3972




えむカフェ
お薬手帳と
もしもの時に伝えるシート

お薬手帳は、意外と貴重な情報になることをご存じですか？持っていてよかつたと思えるようなことなどみんなで意見を出し合ってみませんか？

穏やかな暮らしを応援する「えむカフェ」に、あなたも参加してみませんか？心や体の健康について、暮らしに役立つアイデア話など、井戸端話ならぬ「えむはた話」で盛り上がりましょう！

申込不要 参加費無料 途中参加OK

令和5年10月11日(水) 14:00-15:30
都島本通4-22-9-3階 2F
限定的

主催: えむカフェ実行委員会
 후원: 都島区在宅医療・介護連携推進協議会





百歳体操 イベント会場での啓発

- R5.11.7 「元気教室」 (ローレル)
- R5.11.21 「三陽ハイツ百歳体操」
- R5.11.24 「ワンダフルチーム百歳体操」
- R6.1.29 「内代百歳体操」
- R6.1.31 「百歳体操体験会」

<区を超えた取り組み>

- ・ 淀川区の「薬剤師会との多職種連携研修会」へ参加し、「もしもの時に伝えるシート」の啓発（R5.11.16）
- ・ さくらネットワーク（総合医療センター地域連携ネットワーク）に参加されている他区の病院関係者へシートの活用について説明

<救急搬送時の活用事例>

- ・ 独居高齢者の救急搬送において呼吸困難で他区の病院へ搬送され、「もしもの時に伝えるシート」を持参しており家族へ連絡がスムーズに出来て助かったとの声
- ・ 他区のある救急隊から「もしもの時に伝えるシート」ですぐに連絡が取れたことで大変好評
- ・ 他区の専門病院から「わかりやすくできていいですね、大切に持っていてください」と患者様へコメント。

<日常場面での活用事例>

Aさんは、娘さんが医療センターに入院治療されている為、「お見舞いに16時頃に行くから」と娘さんに連絡。

ところが面会時間に、お見舞いに来られませんでした。

今日は、雨で寒いからやめたのかと思った娘さん。

軽い認知症のあるAさんは医療センターの近所に住んでいて、いつも医療センターに歩いて受診されていたのに、道がわからなくなり、いつの間にか近隣府県にいました。

近隣府県を巡回していたお巡りさんが、18時頃にベンチに座っているAさんを見かけ、20時頃また巡回した時に同じベンチに座っていたAさんを見かけて「雨が降っていて寒いのに、おかしい」と思い声を掛けられました。

身元確認のため警察の方がポーチの中を確認させると
「もしもの時に伝えるシート」が入っていました。

いつも出掛ける時に持参されるポーチに鍵を結び付けて、そのポーチの中に
「もしもの時に伝えるシート」を娘さんが入れていました。

ところが、シートに記入されていた、緊急時連絡先の娘さんに連絡するも、入院治療中のため連絡がとれませんでした。

しかし、ケアマネさんや、訪問看護の緊急連絡先も記入されていたため、ケアマネ・訪問看護に連絡があり、状況がわかりAさんは、パトカーで送られ無事に都島の自宅へ帰ることが出来ました。

救急搬送時だけでなく、日常生活の中でも活用して頂いています。

今後の取り組み

- お薬手帳やシートの保管場所について
(救急隊にすぐわかる工夫)
- お薬手帳カバーの中に入れて保管する周知の徹底
(お財布や携帯カバーの中に入れていた方もいて、
気づきにくいという指摘があった。)
- 救急外来現場での活用状況や活用好事例の収集
- 引き続き区民への周知

これまでの取り組み評価のため、アンケートの実施を行っております（2月中旬～3月10日まで）

・ 設置場所（包括・区役所・病院・診療所・歯科医院など）

＜主な内容＞・何枚配布されたか

- ・イベント等された場合の配布枚数、イベント回数、イベント名
- ・受け取られた方の反応
- ・対応に困ったかどうか等

・ 記入補助等を行った（薬剤師・訪看・ケアマネに実施）

＜主な内容＞・配布した方（本人、家族、その他）

- ・渡せなかった方について（理由）
- ・記入された方について（誰が）
- ・延命治療の欄記入について、利用者の反応について等

「もしもの時に伝えるシート」の経過報告、アンケート内容については以上となります。

- アンケート結果の詳細につきましては、坂下課長よりご報告して頂きます。